

今月の  
ピックアップ

## 金光 幸秀先生(第6代JCOG代表者)にご寄稿いただきました

皆様、こんにちは。2025年4月より、下山正徳先生、西條長宏先生、田村友秀先生、飛内賢正先生、大江裕一郎先生に続く第6代の日本臨床腫瘍研究グループ(Japan Clinical Oncology Group: JCOG)代表者を拝命いたしました、国立がん研究センター中央病院の金光幸秀です。

JCOGは1990年に設立され、がん治療に関する多施設共同の臨床試験を推進することを目的として、新しい治療法や治療戦略の評価を通じて、がん患者の予後改善を目指してまいりました。この由緒あるJCOGの代表者を務めることは、私にとって望外の喜びであり、その職責の重さに身が引き締まる思いです。

私とJCOGとの縁は、2001年にJCOG大腸がんグループが発足した際、愛知県がんセンターの医員として合同班会議に参加したことからはじまりました。当時、私は臨床試験について全く理解していない駆け出しの大腸がん外科医でした。大腸がんグループにとっては、臨床試験作成の黎明期であり、集まった教授たちの発言がデータセンターの先生方に次々と論破される姿を目の当たりにし、これは大変な場所に来てしまったと非常に恐れ慄いたことを今でも鮮明に覚えています。このような形で始まったJCOGとの縁ですが、その後、私自身がJCOGに育てられたという感想を持っています。

### <ビジョン>

JCOGは、国立がん研究センターの研究開発費や日本医療研究開発機構の研究費など、公的な研究資金によって支援される研究班を中心に活動しています。私たちの目的は、新しい治療法の開発や検証的試験の実施を通じて、科学的証拠に基づいた最善の医療を確立することです。具体的には、患者に第一選択として推奨すべき標準治療や診断方法を確立することを目指しています。これまでの研究成果をもとに、今後のがん医療においては、いくつかの重要なトレンドへの対応が求められています。

まず、**個別化医療**の進展が挙げられます。患者ごとの遺伝的背景や腫瘍特性に基づいた治療法が選択されるようになり、JCOGの研究によるデータは、各患者に最適な治療法の選定に役立つエビデンスを提供し、個別化医療の推進に寄与します。次に、**新しい治療法の開発**です。免疫療法や標的療法などの新しい治療法が益々注目され、JCOGの臨床試験によってその効果が実証され、広く導入されることが期待されます。また、**早期発見や予防の重視**も重要です。これに関する研究が進むことで、JCOGの成果が新しい診断法の開発につながり、生存率の向上に寄与するでしょう。さらに、**データ駆動型医療の発展**も見逃せません。**ビッグデータやAI技術の進展**により、治療法の選択や予後予測がより精緻化され、JCOGの蓄積されたデータが新たな研究の基盤となります。最後に、**患者の参加とエンパワーメント**が進むことが期待されます。医療研究開発における患者・市民参画(PPI)の取り組みを推進することで、患者が治療に関与する機会が増え、JCOGの成果が情報提供や教育に役立つことで、患者自身のエンパワーメントが促進されるでしょう。

### <グループ運営の方針>

JCOGは、外科手術に関する研究、外科手術や放射線治療と薬物治療を組み合わせた集学的治療の研究、高齢者を対象とした研究などで、特に大きな業績を残してきました。これらの研究は正に公的研究費でなければできない重要な臨床研究です。



その一方で、私たちはがん医療の進展に寄与するための柔軟かつ迅速な対応が求められています。具体的には、未承認薬を用いた医師主導治験や先進医療制度下の臨床試験を行う体制の強化を図り、プロトコルの作成や審査の迅速化を進めていきます。これにより、急速に進化するがん治療に対応できる体制を整えていきます。また、国内外の他の臨床試験グループとの共同研究を積極的に実施し、情報共有やリソースの最適化を図ります。

一方で、他の臨床試験グループや企業治験との競合も考慮し、私たちの研究が持つ独自の価値を明確にし、競争力を高める努力を続けます。さらに、16の研究グループ間でのアクティビティの差を縮めるため、各グループの活動を支援し、協力体制を強化します。これにより、全体としての研究の質を向上させ、がん患者に対する最善の治療法を提供することを目指します。

### <若手研究者へのメッセージ>

私のJCOGとの出会いは、30代の頃、臨床試験方法論のイロハを全く知らないまま、上司の鞆持ちとして合同班会議に参加したことからはじまりました。その後、縁あって第III相試験のPIや研究事務局を担当する機会を得たことで、私の人生は大きく変わりました。研究者としてのマインドが生まれ、失敗と反省を繰り返す中で、真の成長を実感することができました。考え、悩み、自分自身でようやく到達した成果には、特別な喜びがあります。人間は「向上心」だけでは成長できないことを痛感しました。失敗を徹底的に引きずることでこそ、真の成長が得られるのです。研究結果のキーオーブンの瞬間には、標準治療が替わる、あるいは確定するという感動的な体験が待っています。そして、その後にはASCOなどの晴れ舞台が控えています。研究者として、これほどのやり甲斐と喜びを感じる機会はそう多くありません。医師として臨床だけを行っている、決して味わえない世界が広がっています。ぜひ、皆さんも臨床試験の作成や運営に参加し、この素晴らしい経験を共にしてほしいと思います。あなたの参加が、未来のがん医療を変える力になるのです。

### <結びに>

伝統あるJCOGをさらに発展させるよう努力すること、が私の目標です。がん治療の新たな地平を切り開くために、皆様のご支援とご協力を賜りながら、共に未来のがん医療を創造していきましょう。私たちの努力が、がん患者とその家族に希望と光をもたらすことを心から願っています。どうぞよろしくごお願い申し上げます。

国立がん研究センター中央病院 金光 幸秀

JCOG研究に関わる研究結果やイベント情報など最新情報を発信しますので、ぜひフォローしてくださいね！

Xユーザーネーム: @JCOG\_official URL: [https://x.com/JCOG\\_official/](https://x.com/JCOG_official/)

Facebookページ URL: [https://www.facebook.com/JCOG\\_official](https://www.facebook.com/JCOG_official)

JCOGウェブサイトのトップページからも関連ページへアクセスいただけます。

# JCOG研究の論文公表



## ◇ 泌尿器科腫瘍グループ JCOG0401S3 土肥 洋一郎 先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40056276/>

Nomogram predicting the outcome of salvage radiation therapy for prostate-specific antigen failure following radical prostatectomy: an exploratory analysis of a randomized, multicenter, open-label, phase 3 trial (JCOG0401), International Journal of Clinical Oncology, 2025 Mar 8, Online ahead of print

## ◇ 肺がん内科グループ JCOG2007 試料解析 箱崎 泰貴先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40058642/>

Gut Microbiota in Advanced NSCLC Receiving Chemoimmunotherapy: An Ancillary Biomarker Study From the Phase III Trial JCOG2007 (NIPPON), Journal of Thoracic Oncology, 2025 Mar 7, Online ahead of print

## ◇ 肝胆膵グループ JCOG1113S1 岡田真央先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40052520/>

Impact of clinically diagnosed liver cirrhosis in patients with intrahepatic cholangiocarcinoma treated with systemic chemotherapy: a subgroup analysis of JCOG1113, Japanese Journal of Clinical Oncology, 2025 Mar 7. Online ahead of print.

# 担当医別月間登録数



- ◇ 肺がん外科グループ(月間登録数:6)  
鈴木健司先生/順天堂大学医学部附属順天堂医院
  - ◇ 胃がんグループ(月間登録数:4)  
田中侑哉先生/久留米大学医学部
  - ◇ 食道がんグループ(月間登録数:2)  
鶴田祐介先生/鹿児島大学病院  
渡邊昌也先生/静岡県立総合病院  
武川直樹先生/庫県立がんセンター  
小柳和夫先生/東海大学医学部
  - ◇ 乳がんグループ(月間登録数:3)  
高橋侑子先生/岡山大学病院
  - ◇ リンパ腫グループ(月間登録数:4)  
宮崎香奈先生/三重大学医学部
  - ◇ 大腸がんグループ(月間登録数:2)  
吉田武史先生/久留米大学医学部  
丸山聡先生/新潟県立がんセンター新潟病院  
岡本浩直先生/神奈川県立がんセンター  
豊田尚潔先生/栃木県立がんセンター
  - ◇ 放射線治療グループ(月間登録数:2)  
高橋重雄先生/香川大学医学部
  - ◇ 肝胆膵グループ(月間登録数:2)  
長井和之先生/京都大学医学部附属病院  
池永直樹先生/九州大学病院  
奈良聡先生/国立がん研究センター中央病院  
小林信先生/国立がん研究センター東病院  
青木修一先生/東北大学病院
  - ◇ 消化器内視鏡グループ(月間登録数:2)  
松浦倫子先生/慶應義塾大学病院  
野中哲先生/国立がん研究センター中央病院
- (担当医別最多登録数が1例のグループは割愛しています)

# グループごと月間登録数



登録数月次レポート

<https://secure.jcog.jp/DC/DOC/member/report/index.html>

グループ	1月	2月	3月	合計
肺がん外科	71	67	79	217
大腸がん	35	37	38	110
胃がん	36	28	31	95
肝胆膵	24	21	22	67
食道がん	21	17	23	61
リンパ腫	19	20	20	59
消化器内視鏡	20	7	12	39
肺がん内科	5	8	6	19
脳腫瘍	7	4	8	19
放射線治療	6	7	5	18
乳がん	1	4	6	11
骨軟部腫瘍	4	2	4	10
頭頸部がん	3	2	2	7
泌尿器科腫瘍	4	1	2	7
皮膚腫瘍	0	0	0	0
婦人科腫瘍	0	0	0	0
合計	256	225	258	739



## JCOGデータセンターより

### ● 2025年3月の登録例は258例でした

2024年度は3,225例の登録がありました。2023年度より少なくなりましたが、一つの目標としている年間3,000例を達成しました。沢山の登録ありがとうございました。

2025年度も是非活発な登録をお待ちしております。

